

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	646 ゆめが丘掘見線道路改良事業(2工区)	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	02	道路橋りょう費
基本	50 市内道路網を機能的に強化する	目	03	道路新設改良費
		細目	344	社会資本整備総合交付金事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	69	ゆめが丘掘見線道路改良事業
担当部課	コード	190500	担当者	43 - 2323
	名称	産業建設部建設1課	氏名	山本 昇 連絡先 (内線) 236

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市南部地区から市街地中心部へアクセスする人	※対象件数
成果(どうする)	通行がスムーズになり、地域住民の生活道路として利用しやすくなる。	
根拠法令・要綱等	道路構造令、アスファルト舗装要綱	
開始年度	平成 22 年度	関連事業
終了年度	平成 25 年度	広域農道整備事業
H22 事業内容	事業計画 延長1,400m 道路幅員W=12m 測量・設計 L=1,400m 用地測量12.5ha	
社会情勢の変化等	市の骨格を形成する幹線道路網を早期に構築するため、主要道路事業を早期に完成させて、費用対効果を向上させる。また、工事に際しては環境負荷の少ない工法や機材を使用する。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 建設用地	伊賀市掘見他地内	1 運営主体	
2 建設面積(延床面積)	計画延長L=1,400m	委託先	
3 規模・構造	道路構造令第3種3級(W=12m V=40km/h)	2 配置人員	人
4 総事業費	723,000 千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
道路改良延長		m	目標	実績		700
			目標	実績		
道路用地取得面積		m2	目標	実績	20,900	11,480
			目標	実績		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
道路整備による作業進捗		事業効果を高めるため短期間での事業完了に努める(執行済事業費/総事業費)	%	目標	実績	5	12
				目標	実績	5	55

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金		39,900	51,200	358,000
	県支出金		19,500	27,500	192,500
	地方債				
	その他		19,300	22,500	157,200
	一般財源		0	0	0
	事業投入人件費(B)	1人	0	1.5人	10,800
	フルコスト(A)+(B)		0	50,700	62,000

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担できず、これを補完する事業	○
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		市道四十九ゆめが丘線を起点とし、市道喰代比自岐下川原線(広域農道)につながり、ゆめが丘住宅地と掘見、青山地区を結ぶ幹線道路である。また、比自岐地区の住民にとり、現在の中心市街地へのアクセスはかなりの迂回を余儀なくされている現状であり、本路線の開通によって飛躍的に利便性が向上する。
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		○
青山地域とゆめが丘を結び、さらに名阪国道、中心市街地を結ぶ「伊賀市の南北軸となる幹線道路」で、機能・有効性は特に高く、交通アクセスを高めるため計画通り進めることが必要である。		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無	有
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	繰越明許費
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	○
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】 道整備交付金事業 ゆめが丘掘見線	
	受益者負担を求められることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	北山 太加視
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	青山地域とゆめが丘を結び、さらに名阪国道、中心市街地を結ぶ「伊賀市の南北軸となる幹線道路」で、機能・有効性は特に高く、交通アクセスを高めるため計画通り進めることが必要である。
現時点における課題、その他	整備ルート上に公園混雑区域が発見されたので土地調査を早期に行う必要がある。
課題、その他に対する改善策	平成25年度完成を目指して取り組んでいく。
(いつまでに、何を、どうする)	